

化粧品OEM・コスモビューティー

神戸・ポーアイに新工場棟

100億円投入 関西の生産体制強化

化粧品OEM(相手先ブランドによる生産)大手のコスモビューティー(大阪市)は、神戸・ポートアイランド2期にある神戸工場に、約100億円を投じて新工場棟を建設する。化粧品や医薬部外品を製造する予定で、2025年末の稼働開始を目指す。

(広岡磨瑛)



地鎮祭に出席した(右から)コスモビューティーの山添隆社長、阿尾浩和相談役、西川茂樹会長、神戸市の西川尚斗局長＝神戸市中央区港島南町7

同社は1949年創業。化粧品や洗剤、医薬品を製造し、24年3月期の連結売上高は約523億円。工場は本社のある大阪をはじめ



め、埼玉県やベトナム、中国にもあり、国内外に拠点網と生産能力を拡大している。神戸へは21年に他社の医薬品工場を取得して、進出。現工場は化粧品などの充填・包装を手がけ、研究所も併設している。

新工場棟は関西の生産体制の強化を狙い。既存工場の南に位置する神戸市有地約7300平方メートルを取得。6階建て延べ床面積約2万

コスモビューティーが神戸工場に建設する新工場棟のイメージ(同社提供)

1千平方メートルで、化粧品や医薬部外品の製造と充填、包装を担う。最大250人程度を雇用。外国人従業員への技術指導にも力を入れる。

このほど地鎮祭を執り行い、山添隆社長は「大阪の小さな会社から、このように大きな工場を建てるまでに至り、感慨深い」と話した。神戸市の西川尚斗・企画調整局局長(医療産業担当)は「医療産業都市では産業面の活性化も重要。(新工場は)地域経済の発展につながる」と期待した。